PART3　して・より・にて

★「して」の重要な3つの訳

①　手段（＝～　　　）

②　共同（＝～　　　）

③　使役の対象（＝～　　　）

（例）人して、惟光召させて…

〔例題三〕　傍線部の文法的意味として、最も適当なものを次の選択肢から選べ。

①　御使ひして申させ給ふ。

②　長き爪して眼をつかみつぶさむ。

③　むつまじき四五人ばかりして、まだ暁におはす。

ア　手段　　イ　共同　　ウ　使役の対象

①＝　　②＝　　③＝

★「より」の重要な3つの訳

① 経由（＝～　　　　　）
　起点（＝～から）で訳せた時、注意！
（例）木の間より洩り来る月の影

② 即時（＝～　　　　　）
「　　　　」形＋より→「即時」から考える。
（例）名を聞くより、やがて面影は推しはからるる心地するを…。

③ 手段・方法（＝～　　　　　）
「　　**手段**」が多い。
※「　　　　　　　」（＝徒歩で）

★「にて」の用法

①　場所・時間
②　時刻・年齢
③　手段・方法
④　原因・理由
⑤　**資格・状態（〜として・〜で）**

(例)　ただ人にておほやけの御後ろ見をするなむ、行くさきも頼もしげなること。

※「にて」の識別

体言
連体形
｝＋にて

＝「〜であって」→断定「なり」㊝＋接続助詞「て」

＝「〜であって」→格助詞「にて」

〈Memo〉

第14講　PART3　確認問題

①「かの大将……とのたまひて、御随身(みずいじん)、舎人(とねり)して取りにつかはす。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　手段　イ　共同　ウ　使役の対象　エ　場所

②傍線部の品詞の種類が他と違うものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　御袖して御耳塞ぎたまひつ。
イ　いみじう心して書けど、かならずこそきたなげになるめれ。
ウ　御供に声ある人してうたはせたまふ。
エ　友とする人、ひとりふたりして行きけり。

③「徒歩よりまうでけり。」の傍線部と同じ用法のものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　神代より　吉野の宮に　あり通ひ…
イ　つぎねふ　山城路を　人夫の　馬より行くに…
ウ　我よりも　貧しき人の　父母は　飢ゑ寒ゆらむ…
エ　家づとに　貝を拾ふと　沖辺より　寄せ来る波に　衣手ぬれぬ

④ 傍線部の格助詞「にて」の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

かばかり聞こゆるにても、おしなべたらぬ心ざしのほどを御覧じ知らば、いかにうれしう。

ア　場所・時間
イ　手段・方法
ウ　原因・理由
エ　資格・状態

⑤ 傍線部の品詞の種類が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　変化の物にて侍りけん身とも知らず、…
イ　我あさごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、知りぬ。
ウ　おく露の光をだにぞやどさましをぐら山にて何求めけん
エ　潮海(しほうみ)のほとりにて、あざれあへり。

第14講　PART3　解答

〔例題三〕　①　ウ　②　ア　③　イ

第14講　PART3　確認問題　解答

〈解説〉

① 「して」の上に「御随身（みずいじん）」・「舎人（とねり）」と人を表す言葉があり、下に「～させる」と訳せる言葉（「つかはす」）があることに着目する。「大将が……御随身や舎人に命じて取りに行かせる」と訳せるので、「して」は使役の対象を表すとわかる。よって、ウが正解。

② ア・ウ・エの「して」は格助詞の「して」。イはサ行変格活用動詞「心す」の連用形の活用語尾に接続助詞の「て」がついたもの。よって、イが正解。

③ 設問は「徒歩より」（＝徒歩で）なので手段の用法。選択肢から交通手段を探すとイのみ。よって、イが正解。

④ 「これほど申し上げることからも、ありふれた好意ではないことをお察しいただければ、どれほどうれしいことでしょう」という意味になる。よって、ウが正解。

⑤ イ・ウ・エは格助詞「にて」。アは断定の助動詞「なり」の連用形に接続助詞の「て」がついたもの。よって、アが正解。

〈解答〉

① ウ　② イ　③ イ　④ ウ　⑤ ア